

I 平成28年度事業計画

九州の中核都市福岡に本拠を置く九州交響楽団は福岡県より公益法人の認定を受け、国、福岡県、福岡市、北九州市、地方公共団体、産業界、市民の助成を得て、福岡県を中心に公益目的事業として演奏活動を行い音楽文化の向上をはかる。

九州交響楽団が出演する公演（公益目的事業）は、九州交響楽団が自ら企画・主催する＜**主催公演**＞と鑑賞団体、企業、学校などからの依頼を受け出演する＜**依頼演奏会**＞に分けられる。

ほか、収益事業として、CD等の販売を行う。

（1）主催公演

福岡市では、以下のコンサートを実施する。

- ①＜定期演奏会＞ （9公演）
- ②＜天神でクラシック＞ （4公演）
- ③＜名曲・午後のオーケストラ＞ （4公演）
- ④＜親と子のためのコンサート＞ （1公演）
- ⑤＜ニューイヤー・コンサート＞ （1公演）
- ⑥＜アクロス一万人コンサート＞ （2公演）

①＜定期演奏会＞

九州唯一のプロ・オーケストラとして、九響の持つ高い音楽性・実力をクラシック音楽ファンに提供する＜芸術型＞シリーズと位置付ける。これまで九州で取り上げることのなかった作品、アジアの芸術家の紹介にも努める。（9公演）

●特徴としては

- (i) 福岡在住の作曲家中村滋延の作品「交響曲第5番『聖なる旅立ち』」を取り上げ小泉音楽監督の指揮で九州初演する。
- (ii) 福岡市の姉妹都市フランスボルドー市のオーケストラからクラリネット奏者リシヤール・ランベールを招聘し、11月に広上淳一の指揮で共演する。
- (iii) アジアに近い九響として、2月に台湾出身の指揮者リュウ・シャオチャを招聘する。

②＜天神でクラシック＞

トークを入れ、クラシック音楽を普及させることを目的にした＜啓蒙型＞シリーズと位置付ける。（4公演）

●特徴としては

- (i) 4月には指揮者現田茂夫が<愛をテーマ>に、6月には指揮者下野竜也が<ベートーヴェン：交響曲「運命」の解説>を、11月には指揮者鈴木優人が<交響曲の歴史>を、それぞれ独自の語りを入れ演奏する。
- (ii) モーツァルトの誕生日である1月27日には、<世界最高のホルン>と称されるホルン奏者ラデク・バボラークを迎え、毎年恒例の<モーツァルト・プログラム>を開催する。

③<名曲・午後のオーケストラ>

子供からお年寄りまで来場しやすい午後2時に開演し、誰もが耳にしたことの有る名曲を集め、多くの市民に楽しんでいただくことを目的とした<市民大衆型>シリーズと位置付ける。(4公演)

●特徴としては

- (i) 指揮者には小泉音楽監督、小林研一郎などの著名な指揮者を起用し、「ベートーヴェン：交響曲第7番」や「ベルリオーズ：幻想交響曲」などの名曲を披露する。
- (ii) ソリストには人気ヴァイオリン奏者神尾真由子、日本を代表するチェロ奏者宮田大などが名曲を演奏する。

④<親と子のためのコンサート>

未来のクラシック音楽ファンである子供たちのための<子供教育型>コンサートと位置付ける。(1公演)

●特徴としては

- (i) 平成28年度もテレビでお馴染み青島広志の指揮とお話で、クラシック音楽からアニメソングまで音楽の魅力を子供たちに伝える。
- (ii) 子供が直接楽器に触れることにより、より音楽が身近に感じられる様、開演前に<楽器ふれあいコーナー>を設ける。楽団員も協力し子供たちを指導する。
- (iii) 4年連続し<ウエスト>の冠協賛を頂き開催する。

⑤<ニューイヤー・コンサート>

新年にふさわしく家族で楽しめる<大衆型>コンサートと位置付ける。(1公演)

●特徴としては

- (i) 現田茂夫の指揮とお話しに加え、ゲストには若きソプラノの三宅理恵を迎える。
- (ii) 内容は、ウィнна・ワルツ、オペラ・アリアを中心に楽しいプログラムを企画する。
- (iii) アクロスでは九響合唱団が出演する。

⑥<アクロス一万人コンサート>

アクロス福岡の企画で、小中高校生を対象としている公演であるが、例年アクロスと協力し共催で実施している。（2公演）

北九州市では、以下のコンサートを実施する。（4公演）

福岡県東部の北九州市でのクラシック音楽普及を目的とした<地方普及型>コンサートと位置付ける。

①<北九州定期演奏会> （2公演）

●特徴としては

- (i) プログラムは基本的に福岡での公演と同じであるが、9月は地元北九州市出身の若手ヴァイオリン奏者南紫音を起用し、独自性もだしている。

②<第九の夕べ> （1公演）

●特徴としては

- (i) 指揮者に今年度最も優秀な若手指揮者に送られる<齋藤秀雄メモリアル基金賞>を受賞した川瀬賢太郎が「第九」に初登場する。
- (ii) バリトンには福岡で教鞭をとる原尚志を迎える。また、地元「北九州市民フロイデコール」の合唱団と共演を行う。

③<ニューイヤー・コンサート> （1公演）

●特徴としては

- (i) 現田茂夫の指揮と巧みなお話を展開し、北九州でもソプラノの三宅理恵を迎える。
- (ii) ウィンナ・ワルツ、オペラ・アリアを中心に楽しいプログラムを企画する。

久留米市では、以下のコンサートを実施する。（1公演）

福岡中南部でのクラシック音楽の普及を目的とした<地方普及型>コンサートと位置付ける。（1公演）

①<久留米定期演奏会> （1公演）

●特徴としては

- (i) 久留米独自のプログラムを企画し、久留米市民が福岡へ行かずともオーケストラを楽しめるコンサートとする。
- (ii) ソリストに日本音楽コンクール第1位のフレッシュなヴァイオリン奏者会田莉凡を登用する。

なお、延岡「第九」公演は平成 27 年度まで主催公演として実施したが、平成 28 年度から安定した収入が得られる依頼公演として実施することとした。

(2) 依頼公演

依頼公演は、＜主催公演＞以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートである。

平成 28 年度の大きな依頼公演では、平成 17 年度から続いている「福岡県市町村振興協会」主催の中学生を対象とした公演（42 公演）がある。

新規事業として、7 月に大分県立総合文化センターから 1 公演依頼を獲得することが出来た。本公演は 7 月に九響が主催する定期演奏会のプログラムを翌日実施するもので、リハーサル日数の節約にもなり、また同プログラムを再演することで九響の技術向上にも繋がると期待できる。

平成 27 年度新規に日生劇場から 2 公演の依頼を頂いたが、平成 28 年度も 2 公演獲得することが出来た。

また、依頼があれば、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏を実施する。この《室内楽》も＜依頼公演＞に含まれる。

前述、＜主催公演＞、＜依頼公演＞は、公益法人の事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の 5 種類に分類している。

※《移動音楽教室》について：《移動音楽教室》も依頼公演であるが、情操教育を目的とした公演を《移動音楽教室》に分類している。

公益法人における事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会（11 公演：福岡市 9 公演、北九州市 2 公演）

福岡市での

＜定期演奏会＞（9 公演）

北九州市での

＜定期演奏会＞（2 公演）

[2] 巡回演奏会（11 公演：福岡市 9 公演、北九州市 2 公演）

福岡市での

＜天神でクラシック＞（4 公演）

＜名曲・午後のオーケストラ＞（4 公演）

＜ニューイヤー・コンサート＞（1 公演）

北九州市での

<第九公演> (1公演)

<ニューイヤール・コンサート> (1公演)

[3] 特別演奏会 (4公演：福岡市3公演、久留米市1公演)

福岡市での

<親と子のためのコンサート> (1公演)

<アクロス一万人コンサート> (2公演)

久留米市での

<久留米定期演奏会> (1公演)

[4] 移動音楽教室 (2公演)

[5] 依頼演奏会 (128公演：オーケストラ公演：88公演、室内楽演奏：40公演)

※<参考>公演数一覧

	平成28年度計画	平成27年度計画	回数増減
定期演奏会	11回	11回	増減なし
巡回演奏会	11回	12回	1回減
特別演奏会	4回	4回	増減なし
移動音楽教室	2回	2回	増減なし
依頼演奏会	88回	94回	6回減
合計	116回	123回	7回減

	平成28年度計画	平成27年度計画	回数増減
室内楽	40回	41回	1回減

以上